

Eco-Drive EYES //



Go!!

EAT

OL

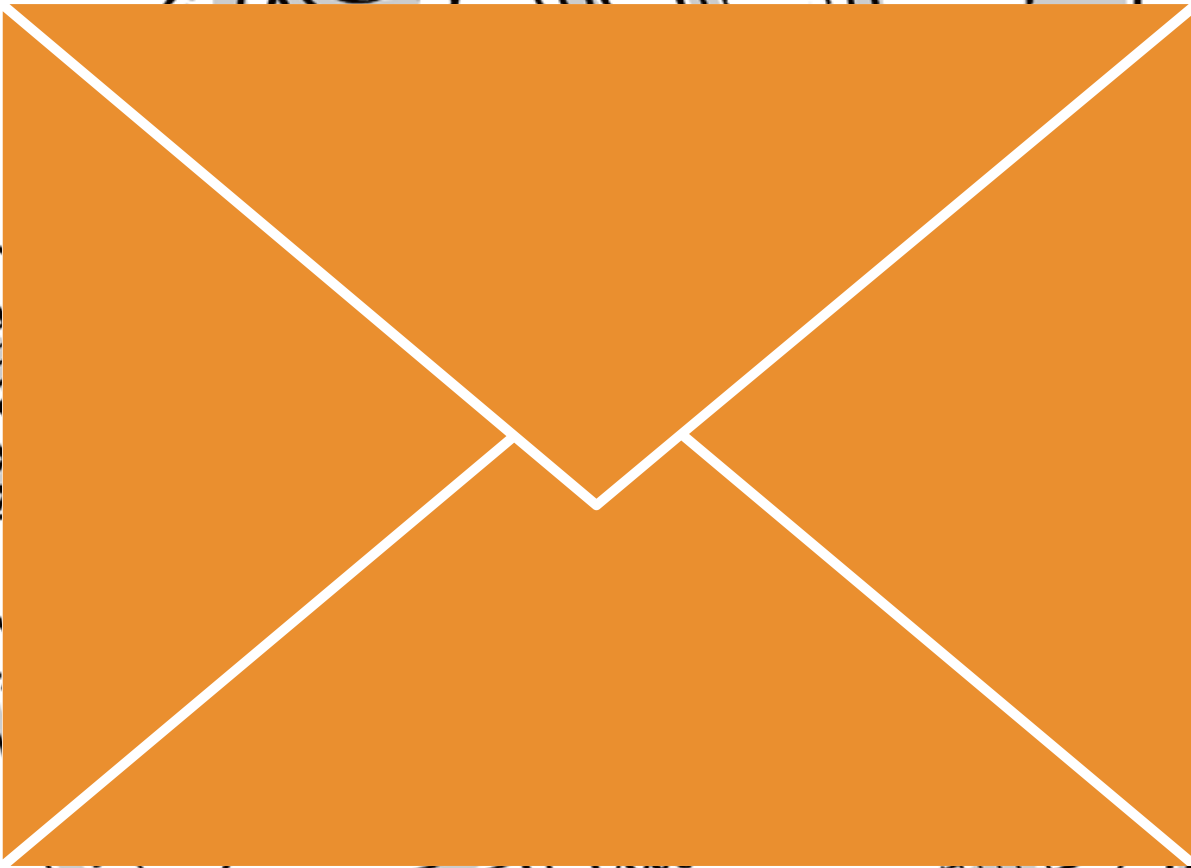
oot...

AH

0%

ov!

GO!



TIME
x LIGHT
x FUTURE



OH, I SEE

CONTENTS

02

IN CITIZEN MODE

Photo: Shoda Masahiro



10

THE ART OF EYES

メジカラはアートです



16

EYES IN NEW YORK

時計の着回してアリですか？



20

TIME×LIGHT×PEACE

Photo: Philippe Lacombe



28

TORISETSU by cookieboy

女子はトリセツ読みませんから



32

INTERIOR GOODS

モノトーン絶対主義



34

WELCOME TO YOUR EYES

インテリアショップで見てね!



Eco-Drive EYES



2010年の『BASELWORLD』でコンセプトモデルとして発表された、スーパーウォッチ。光がもたらす「陰影の美」を表現したセラミックス文字板が特徴。植物園をイメージしたドーム型風防は、デュアル球面サファイアガラスを採用。哺乳瓶の乳首と同じ素材を使用した、肌に優しいリキッドラバーストラップ。光発電エコドライブ搭載。ケース径43mm。世界限定500本(ホワイト、ブラック 各250本)。¥420,000(シチズンお客様時計相談室)。2月21日発売。

Cover Illustration: Rán Flygenring

Art Direction/Design: Naomi Hirabayashi
DTP verify: 3355 Masako knack Nishimura, Kenichi Shiina, Masaki Yoshihisa

P.02-08 Photo: Shoda Masahiro(D-CORD) Styling: Shinichi Mitter(KiKi inc.)
Hair: ABE(MØ) Make-up: Nao Suzuki(P.02-05_eight peace),
Noda Norikata(P.06-08_LYDIA pro)
Models: Billie, Amanda, Dmitri, Marina Aleks, Ebba, Mirko, Sima(P.02-03),
Charlotte(P.04-05), Agnes(P.06-07), Chloe(P.08)
Prop: Aki Kasai(P.02-03) Text&Edit: Reiko Ishii
Cooperation: AWABEES, Kartell Shop Aoyama(P.02-03)

本誌掲載の写真、イラスト、記事の無断転載を禁じます。 ©株式会社マガジンハウス 2013

文責/誌面についてのお問い合わせ: マガジンハウス広告局企画制作部 ☎03-3545-7106
時計(Eco-Drive EYES)のお問い合わせ: シチズンお客様時計相談室 ☎0120-78-4807

CITIZEN MAGAZINE

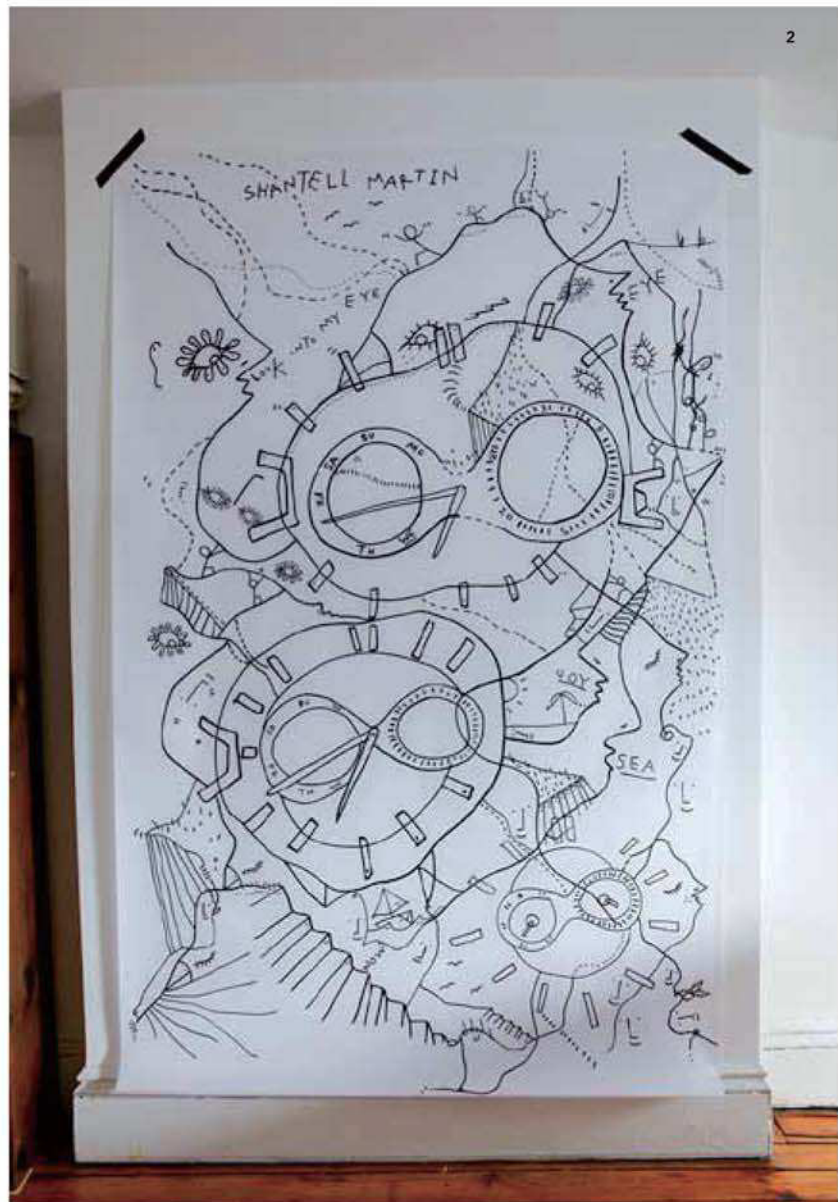
Publisher: Tetsuya Inui(CITIZEN)
Executive Producer: Nobuhisa Kizaki(CITIZEN)
Editor in Chief: Shigemitsu Ito(CITIZEN)
Acting Editor in Chief: Kana Iwahashi(CITIZEN)
Editorial Director: Yukihiro Eda(MAGAZINE HOUSE)
Managing Director: Hanako Nakamura
Communications Managers: Mai Sakamoto(CITIZEN), Kumi Kinoshita(CITIZEN)

CITIZENとEco-Driveはシチズンホールディングス株式会社の登録商標です。
CITIZEN
シチズン時計株式会社 〒188-8511 東京都西東京市田無町6-1-12
CITIZEN WATCH CO., LTD. 6-1-12, Tanashi-cho, Nishi-Tokyo-shi, Tokyo 188-8511, Japan
http://citizen.jp http://www.facebook.com/CITIZENwatch.jp

P.02-03 左から: 時計 ¥420,000(シチズンお客様時計相談室) / シャツ ¥3,675(ズールプロカント 中目黒 ☎03-3716-8164) / コート ¥27,090(スモールチェンジ 高円寺 ☎050-3803-2224) / スカート ¥50,400, ハット ¥23,520(共にラッフィナート ☎03-5771-0301) / バッグ ¥5,145(コネクタ原宿店/コネクタ 町田店 ☎042-722-4990) / ネクタイ ¥3,465(ジーツークエスチョン ☎03-5786-4188) / ベスト、シューズ、グローブ*スタイリスト私物 ジャケット ¥5,145(ズールプロカント 中目黒) / ジャンプスーツ ¥42,000(アルカトロック ☎03-6427-0909) / ジャケットの襟につけたクリップ ¥21,000(セローテ アンティークス 東京 ☎03-5786-3115) / シューズ ¥3,150(ジーツークエスチョン) / スカーフ ¥5,040(ジャンヌパレ ☎03-3464-7612) / グローブ*スタイリスト私物 スーツ ¥60,900, ネクタイ ¥3,990, スカーフ ¥3,990(以上デイベッツ クローゼン ☎03-3409-8822) / ストール ¥8,190(ジャンヌパレ) / サンングラス ¥23,100(シスター ☎03-

5456-9892) / シャツ、ネクタイピン、グローブ、シューズ*スタイリスト私物 グローブ ¥7,140, ハット ¥26,040(共にラウジー・パロック ☎03-3463-7809) / ストール ¥3,045, シューズ ¥4,515(共にジーツークエスチョン) / ワンピース ¥42,000(アルカトロック) / ピアス ¥15,750(セローテ アンティークス 東京) / コート ¥34,440(ヴィニ ヴィニ ☎03-3477-7378) / ベスト*スタイリスト私物 時計 ¥420,000(シチズンお客様時計相談室) / ワンピース [ジャケットとセットアップ] ¥73,500(ジャンヌパレ) / バッグ ¥13,440(パースデス ☎03-3780-1723) / コート ¥17,800(ヴィヴィッド ☎03-6326-7263) / ハット ¥11,340(スモールチェンジ 高円寺) / ハットにかぶせたチュール ¥15,540(キャバレー ☎03-3462-0022) / ネックレス ¥8,400(セローテ アンティークス 東京) / イヤリング ¥5,040(ラウジー・パロック) / シューズ ¥5,565(ジーツークエスチョン) / グローブ、タイツ*スタイリスト私物 スーツ ¥60,900, ネクタイ ¥3,990(デイベッツ クローゼン) / ショール ¥

13,440(パースデス) / シャツの襟につけたクリップ ¥6,300(ラッフィナート) / ハット、シャツ、ネクタイピン、グローブ*スタイリスト私物 ワンピース ¥10,290, ハット ¥17,640, グローブ ¥6,090, イヤリング ¥7,140(以上ラウジー・パロック) / コート ¥26,040(パースデス) / シューズ*スタイリスト私物 テーブル ¥420,000(HALO | ASPLUND 恵比寿店 ☎03-5725-8651) P.04-05: 時計 ¥420,000(シチズンお客様時計相談室) / ワンピース ¥18,900, カーディガン ¥25,200, ボーチ ¥16,800(以上ジャンティーグ ☎03-5704-8188) / メガネ ¥13,650(シスター) / イヤリング ¥5,250(ラッフィナート) / シューズ、ソックス、ベルト*スタイリスト私物 P.06-07: 時計 ¥420,000(シチズンお客様時計相談室) / チュチュ ¥16,800(キャバレー) / ドレス、シューズ、ベルト*スタイリスト私物 P.08: 時計 ¥420,000(シチズンお客様時計相談室) / ドレス ¥42,000, ベルト ¥2,000 *参考商品、バングル*参考商品、ネックレス3点(太1点 細2点) *参考商品(以上アルカトロック)



THE ART OF EYES

メヂカラはアートです

ニューヨークとその周辺で活躍中の3人のアーティストに、〈Eco-Drive EYES〉の「目」をモチーフとした、オリジナル作品を作ってもらいました。仕事場も拝見しちゃいます。

「ドローイングの線とは、すなわち人生の進路なんです」

SHANTELL MARTIN

シャンテル・マーティンさん

「どんなことがあっても、たえず前進。それが私の生き方です」。ブルックリンの自宅でそう語りながら、白い紙にマーカーを走らせ続けるシャンテルは、いまや世界中から引っ張りだこのヴィジュアルアーティストだ。ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズを卒業後、東京でキャリアを開花。クラブの映像アーティストとして高い評価を得た彼女は、わずか数年で、イギリスのDJ専門誌が選ぶ世界のトップVJ10人の1人となった。

ニューヨークに住み始めたのは、今から5年前のこと。近現代アートの殿堂MoMAで照明アートのパフォーマンスをし、ギャラリーで個展を開き、各地で講演を行うなど八面六臂の活躍だ。スーパーモデルや写真家、ブランドとのコラボも精力的に手がけ、フランスのファッション誌で「2011年NYの最もクールなイット・ガール」に選ばれたかと思うと、ドラマ『ゴシップガール』に本人役で登場したりと、アメリカでの人気もうなぎ上り。

有名人の自宅や企業オフィスの壁、スニーカーや人の顔(1)などさまざまなキャンバスに、ひらめいた言葉や絵を描き続けるシャンテル。近々、ドローイングをタクトとして提供するプロジェクトも手がける予定だとか。「後ろは決して振り向かない。私の意志で選び、延々と続いていく一本の線、そしてそこに込められたエネルギー。その線とは、ドローイングのラインであり、また人生の進路でもあるんです」とシャンテルは静かに微笑んだ。

シャンテル・マーティン ⑧ ロンドン出身。ドローイングの原概念を打ち破る、気鋭のクリエイター。限定品のiPhoneケースやTシャツなど、シャンテルグッズはオンラインでも入手可能。www.shantellmartin.com

Photo: Jennifer Causey
Coordination: David G. Imber
Text: Mika Yoshida

1: ドローイングと、「EYES」という言葉がどんどん変化するコトバの作品、2枚で1作品。「私の目を見なさい...見なさい...まだ見えていますか...」と連なる文字を追っているだけで、なんだか眠くなっていく? 「実際、目を見つめる行為って催眠効果がありますよね」とシャンテル。2: 「時とともに人は賢くなるし寛容になれる。常に成長を続け、自分が何者なのかを探求し続ける。時間も人生も、旅です。道や段階がそれぞれ異なるだけで、誰も同じ旅を続けている。人はみな常に前進しているんです。時間もまた同じこと」3: 相棒は〈KRINK〉のマーカー。4: デスクの上。先日は人気トークショー『ジミー・キンメル・ライブ!』にも出演。5: ドローイングで埋め尽くされた彼女の寝室。「最初マントルピースの下だけだったのが、いつのまにか全体に」6: これ欲しい! オリジナル・スニーカー、すべて一点物。7: 先週から取りかかっている、模型飛行機のドローイング。スルスルとマーカーが走り始めると、白い模型がみるみるシャンテルワールドに。8: ランドリールームに貼られたメモも、何だか作品のよう。ちなみにシャンテルは1月26日、目黒クラスカで開催されるデザイン・テクノロジーフェス『FITC TOKYO』で講演の予定。

1



2



「作品が私を見つめ返していると感じた時が完成の瞬間です」

ANN WOOD

アン・ウッドさん

柔らかなフォルムの小鳥やコウモリ、ユーモラスな顔のクモ。カサがぼっとふくれたキノコたち。アンの手先から生み出されるオブジェは、すべて一点モノだ。彼女の肩書はアート・クラフター。100年以上も前の繊細な布地を材料に、アンティークの手芸用具を駆使しながら、すべて手作業でこつこつ縫い上げる。

アンのオブジェを取り扱う店は、セレクトショップ「catbird」や、ウェディングブランド〈Beholden〉、高級テキスタイルブランド〈Fortuny〉など目利きになうリストがズラリ!もともとアンは、広告の世界で活躍する超売れっ子クリエイターだった。ところがある日、これからは自分の作品を作ろうと決心、コマーシャルの世界から離れる。その頃たまたま見つけた、エドワード朝時代のガウン。状態が良ければ博物館に収蔵されたはずの価値ある品だ。傷んでいない部分だけを集めた、ほんのわずかな布地は滑らかで、手触りもまるで羽根のよう。そこで自然に生まれたのが、小鳥だったという。たちまち評判を呼び、ウェディングケーキの飾りとしても小鳥シリーズは爆発的に売れた。「ある時フクロウを連想させる古いツイードがあったので、1羽作ってみたの。それまで明るい色のハッピーな子ばかりでしたが、そのフクロウ以降どんどんダークな世界に(笑)」と、「どのオブジェも、その子が私を見つめ返していると感じた時が完成の瞬間です」。愛おしすぎて、手放すのは毎回切ないんです、とコッソリ打ち明けてくれた。

アン・ウッド>> マサチューセッツ州出身のアート・クラフター。古風な素材と鋭いセンスが生み出す優しいオブジェは、スタイリストやデザイナーなどプロの間で絶大な人気を誇る。www.annwood.net

1: オスのフクロウ、体長は35cm。「Eco-Drive EYES」を見た時に、最も印象的だったのが、トーンの微妙に異なる黒が何種類も使われている点でした。このフクロウの素材はエドワード朝のボディスとスーツ、日本のヴィンテージの着物2枚。それぞれニュアンスの違う4通りの黒を合わせて、豊かな奥行きと陰影を出しました」2: 頭が時計の文字板! 完成間際に思いついたアイデアだとか。フクロウ1体を制作するのに、かかりっきりでも4日はかかる。「ビジネスとしての効率は良くないわね」と笑う。3: クモのパーツ、フクロウの型紙、と個別に収納。“names of the dead”って?

「あ、それは新聞から切り抜いた面白いフレーズ。ペーパーマッシュェを作る時に使ってます」4: キノコも人気のシリーズ。5: コウモリの胸には赤いハートが。6: 左の窓にかかっているレースは、わずかに9ドルで買った年代物のスカート。アトリエ兼住まいのこの部屋は、アンが見つけてきたり制作したりしたものいっぱい。母親の時代から使っているミシンは地元マサチューセッツ州の老舗メーカー、ホワイト社製。「7歳の時から使っているの、もはや体の一部ね」7: 小鳥、制作中。8: ペーパーマッシュェのティーカップ。9: ヴィンテージのボディスはインテリアにも。



(12) Eco-Drive EYES



(13) Eco-Drive EYES





「ワイヤーを使うことで、人物やモノの本質に迫ることができます」

LISA FEDON

リサ・フィードンさん

ペンチを握って、針金をクイククと回していくリサの手の中で、みるみる形が表れてくる。ものの数分もしないうちに、自分のサインを針金で書いてしまったのにはビックリ！まるで空中に透明な下書きがあるかのよう。「金属が好きなんです」と微笑むリサは、この道35年のベテランアーティスト。1980年代にはグッチNY店に作品が展示され、その後も地元のペンシルヴェニア州やNYを中心とする各地の大学や企業、空港やホテルなどさまざまな場所に、リサのメタルアートが置かれてきた。ペンシルヴェニア大学では、意外にも彫刻ではなく版画を専攻したという。動く彫刻のモデルで広く知られる芸術家、アレクサンダー・カルダーを敬愛する彼女。針金や拾ったオブジェを用いるのもカルダーの影響だ。「最初はワイヤーで男性の胴体部分を作っていました。人物の本質により迫ろうと、ディテールをそぎ落として、外枠だけのシルエットを描くようになったんです。やがてさらにシンプルな影だけに(笑)」。溶接の技術も習得し、鋼鉄で巨大なオブジェや家具も作る。ワイヤーアートのフレームも彼女が鉄板から制作するというからスゴイ。

ちなみにここペンシルヴェニアはかつて全米一の鉄鋼産業を誇る土地だった。時代が変わった今、その中心だったピッツバーグなどにも製鉄の町としての面影はほとんどない。しかしリサは、まだ少し残っている製鉄工場に通っては材料を手に入れ、新たなクリエイションに日々挑戦している。

リサ・フィードン 》ペンシルヴェニア州出身。立体作品や家具を金属で制作する彫刻家。オーナメントなど小さな作品も制作し、そちらは繊細かつキュートな作風。ダイナミックな大作とは対照的。www.lisafedon.com



1: いわば、見事な一筆書き。正面から見るとまるで線描画のようだ。「よく間違われます」と本人も苦笑する。でも実物を横から見ると、深い奥行きをもった立体作品であることがわかる。作品タイトルは「ALL EYES ARE ON YOU (みんなの視線が、貴女に降り注ぐ)」。娘さんにモデルになってもらい、手元の動きを撮った写真を見ながら制作した。「スウェットのジッパーを上げて、袖をまくり、ポケットに手をつまむという一連の動作をワイヤーで描いてみました。その間、周囲の視線はずっと彼女の素敵なウオッチに注がれているという趣向です」。間近で見ないとわかりにくいですが、フレームの左下には日本の地図が貼り込んである。ウオッチの文字盤にはビーズを自玉のように配置した。2: 鉄板にチョークで印をつけ、火花を散らしながら裁断する。細かな文字を切り抜いては、切り口を金づちで叩いてならす。その後グラインダーをかけてなめらかに。1階の作業場にて。3: 金属用ノコギリや、丸ノコの刃などの道具たちが、壁で出番を待っている。4: 2階は一家の住まい。「ちょっと作ってみましょうか」とあつというまにワイヤーで自筆サインが完成! テーブルやイスもリサの作品だ。

5: 金属で制作した馬の彫刻。大きな作品は、病院などで公共アートとして飾られていたりも。6: 日本地図を切り取ったあとの地球儀。「金属製の地球儀って、今ではなかなか手に入らないですよ」7: ボルトやネジは、ジャムやスライスの空き瓶に入れて収納する。ちなみに彼女は3人の子供を育て上げたお母さん。ご主人も展示の際には設置やライティングに奮闘する。家族の協力あってこそこのアート活動だ。



01: トライベッカの「オール・グッド・シングス」は、女優や小説家など著名な常連客が多いことで有名な最新グルメマーケットだ。エグゼクティブ・シェフを務めるライアンは、店頭で食材選びのコツやレシピを親身に教えてくれる人気者。「今日も新鮮な魚が入ってるよ、ハッハ！」 02: ワールドトレードセンター跡地周辺は世界中から訪れる観光客でいっぱい。そんな人たちに道案内をしてあげるのが、デレクはじめ、NPO「ダウントウン・アイアンス」のスタッフたち。「エコ・ドライブってなんて便利なんだ！」とテンションUP!



03: アプリ開発者のマーク(左)、本業は意外にも弁護士。彼女と作ったアプリが大ヒットしたばかり。04: 「トップショップ」ソーホー店勤務のアレクサンドラはオーストラリア出身。VIP客のお買い物をアシストする「プロフェッショナル・ショッパー」として活躍中だ。05: ニューヨークの目にも地元民としか見えないベルナルダ、実はマイアミからの旅行者。「セール時期は必ずNYに来て、ショッピング三昧」。職業は? 「ミュージシャン」

EYES IN NEW YORK

時計の着回してアリですか?

〈Eco-Drive EYES〉はニュー Yorker に似合う時計です。
老若男女問わず、マンハッタン の街中で着回してもらいました!

Photo: Michael Donovan Coordination: David G. Imber Text: Mika Yoshida



09: セントラルパークの東側に住むキャンディは、中国出身。投資銀行業務に携わっている。「シチズンにはこんなウオッチもあるんですね」とビックリ。10: 音大生同士のカップル、どちらもピアニスト。マックスウェル(右)が研究しているのは、19世紀~20世紀初頭のロシアの作曲家スクリャービンだそう。11: 会社員の宇津木さん、オーガニックスーパーの「ホール・フーズ」で食材吟味中。アメリカ国内出張の多い多忙な身だけど、正しい食生活で健康管理も抜かりなし。12: カールの手に握られているのは手綱。観光馬車の御者を務める彼は、旅行者を乗せてはセントラルパーク周辺をゆったり巡る。やはり地元出身? 「いえ、アイルランド生まれなんですよ」



Ray Laurer
BLACK NO.
01



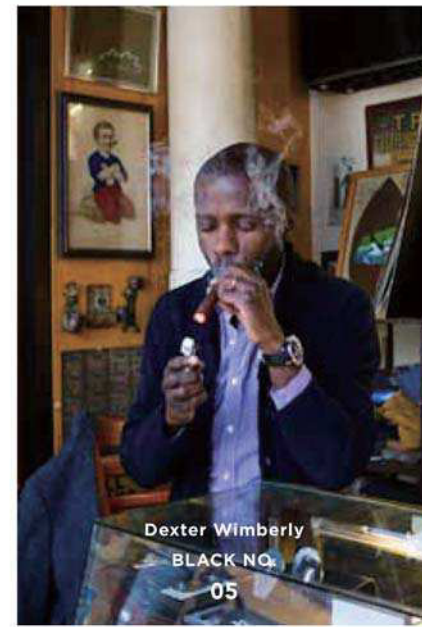
Barbara Sarudiansky
BLACK NO.
02



Charles Zafarani
BLACK NO.
03



Elaine Silbert
BLACK NO.
04



Dexter Wimberly
BLACK NO.
05



Liliana Conde
BLACK NO.
06

→ → →

→ → → →



Aneta Glinkowska
BLACK NO.
12



Anya Kamenetz
BLACK NO.
11



Te'Devan Kurzweil
BLACK NO.
10

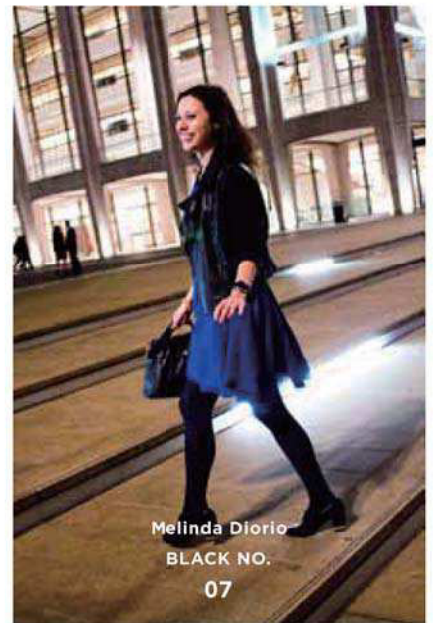


John Kinsman
BLACK NO.
09

← ← ← ← ← ↓



Kristen Shell
BLACK NO.
08



Melinda Diorio
BLACK NO.
07

10:「肩書? ノマド!」。友人の家を渡り歩いては世界中を放浪し、アートパフォーマンスを行う自由人、テデヴァン。Facebookが自分のホームなんだとか。11:アーニャは、ファイナンシャルエリアにある公園で電話中。経済・テクノロジーなどを扱う大手ビジネス誌『Fast Company』で活躍する敏腕ジャーナリストだ。12:ポーランド出身のアネタ。市内で開催されるアート&デザインイベントを完全網羅する情報サイト『NY Art Beat』の共同主宰者だ。NYで開かれる展示会のオープニングでは、必ずアネタとご主人、娘のハナちゃんの姿が目撃できると言われるくらい、アート界では知られた存在。今日もこれから知人のギャラリーへ向かうところだけど、ハナちゃんは珍しくご機嫌ななめ?

01: 愛猫の散歩を毎日欠かさないレイは、インテリアデザイナー。犬の散歩風景はおなじみだけど、猫というのはチト珍しい。すれ違う人たちも、みんな笑顔に。02: バーバラは、繊細な色合いのアレンジで知られるフラワーショップ『Polux Fleuriste』のスタッフだ。ヴィンテージの器・オブジェと花との組み合わせにも定評が。03: トライベッカの時計・貴金属店『Metro Jewelers』で働くチャールズ。接客の合間に、商品を念入りに磨く。04: 「あら、このウオッチ素敵じゃない!」と身を乗り出してきたのは生粋のニューヨーカー、エイリン。「今日はお天気が良いので、ヘルバーさんとお散歩を楽しんでいるところなの。そうね、私に似合うのはこちらかしら」とブラックをチョイス。05: ソーホーにある老舗シガー屋の一角で昼食の最中だったデクスター。あれ、店員さんじゃないんですか? 「美術館のキュレーターを長年務めた後、現在は独立、個人クライアント相手に美術品のキュレーションをしています。食後の一服こそが私にとっては至福の一時。だから、この行きつけの店にランチを持参しては、1人で勝手に食べ、大好きなシガーをくゆらすのが日課なんです」06: スタバで何やら熱心にマックへ向かうリリアナは、ミュージシャン。出身地である南米の楽器ケーナの演奏を、現代風にアレンジした音楽を制作している。07: 「職業? 子供服のデザイナー!」と朗らかに答えるメリндаは、リンカーンセンターで友達と待ち合わせ。「今日のオペラ、前売りを買ってないんだけど、当日券はまだあるかしら」とちょっとドキドキ。08: DJのクリステンはカザフスタン出身。アナスタージャという名のワンコと一緒に、携帯で友達とおしゃべりしながらナイトワーク。09: 気は優しく力持ち、ジョンはNY港湾局に勤務する、建設現場の検査員。現在建設中の超高層ビル「1 ワールドトレードセンター」を担当。建造物のギアやネジには適度なゆるみをもたせる必要があるのだが、そのさじ加減のほどは熟練したジョンの手先の感覚と目だけが頼りだ。「コイツでぎゅぎゅっとね」と、締めるのに使う道具を肩にヒョイツ。541mもの高さで作業するってどんな感覚なんだろう? 「最初の2、3週間は興奮したねえ。だけど何でも慣れてっになるもんなんだよ、これが(笑)」

Welcome To Your Eyes

インテリアショップで見てね!

〈Eco-Drive EYES〉はインテリアショップ6店舗で特別展示されます。
ユニセックスモデルなので男子も連れて行きましょう。期間限定なのでお早めに。

Illustration: Rån Flygenring



arflex

東京都渋谷区広尾1-1-40 恵比寿プライムスクエア1F
☎03-3486-8899
www.arflex.co.jp



THE CONRAN SHOP SHINJUKU

東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー3・4F
☎03-5322-6600
www.conran.co.jp



THE CONRAN SHOP MARUNOUCHI

東京都千代田区丸の内2-4-1 丸の内ビルディング2・3F
☎03-5288-6600
www.conran.co.jp



è interiors

東京都港区南青山4-22-5
☎03-6447-1451
www.interiors-inc.jp/shop/information.php



hhstyle.com

東京都港区北青山2-7-15 NTT青山ビル エスコルテ青山
☎03-5772-1112
https://www.hhstyle.com



TOYO KITCHEN STYLE

東京都港区南青山3-16-3
☎03-5771-1040
www.toyokitchen.co.jp

シチズンウォッチ オフィシャルサイト
http://citizen.jp

CITIZEN Facebook 公式ページ
http://www.facebook.com/CITIZENwatch.jp



CITIZEN®

GINZA No.188 2013年2月号特別付録